

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	文化人類学		
英文授業科目名	Cultural Anthropology		
開講年度	2004年度	開講年次	1, 2年次
開講学期	2, 4学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-人文・社会科学科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	執行 一利 (学内連絡教官 島内 景二)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
異文化との接触が多くなった今日では、異文化理解の重要性を疑う者はいないであろう。ところが残念なことに、我々は自分で気がつかぬうちに自己の文化の尺度を基準にして、異文化を理解することが多い。そこでこの授業では、文化の相対性を認め、人間の文化の構造原理を「解釈」する文化人類学的視覚から人間の文化を考察し、異文化理解の視点を養うことを目的としたい。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書は用いないが、参考書は授業の中で多数紹介してゆく。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

現代日本社会とは縁遠い小規模社会（「未開社会」）の文化・社会が取り上げられる。最初に、文化の相対性についての考え方を具体例を挙げながら検討する。次に、婚姻の問題をとりあげて講述する。近代西欧社会の理想とする一夫一婦制は世界的に見れば決して普遍的ではなく、亡霊婚や女性婚など、それ以外のタイプの婚姻の形態が様々な社会に存在することを具体的に民族誌のなかから紹介する。また、レヴィ＝ストロースをはじめとして人類学者の婚姻理論を検討する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

定期試験の成績、小レポート、出席状況などを勘案して総合評価の予定。

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

常時の出席と授業への積極的な参加を求めます。

【その他】